

CHANGE NOW

～“今”を生きる、未来を生きる～

一般社団法人 奈良青年会議所
第57代理事長 中本 政容

Introduction はじめに

今、思い起こせば、2005年に生駒市で起業した私は、当時、ビジネスの荒波に揉まれ、壊れそうになっていました。そんな時、私を助けてくれたのが2008年に入会した奈良青年会議所です。「もしも入会していなければ、今の自分は存在していなかった」そう言いきれほどJCは心強い存在なのです。しかし、助けてくれたといっても、実際に誰かが手取り足取り具体的な形で助けてくれたわけではありません。多くの方々温かい言葉や行動で私に「大切な気づき」を与えてくれたことで、助けられたといった方が正しいかも知れません。青年会議所は、そんな輝きと魅力あふれる温かい人の集合体であり、お互いが刺激しあえる団体でもあります。

私は、この貴重な経験を自分の一生の宝として心に深く刻みつけ、感謝するとともに、その気づきから「視点を変える」「時を意識する」「想いを伝える」この3つを柱とした活動を推進します。そして、“今”という瞬間を価値ある時の積み重ねに変え、変化している今という時代の先頭を走る仲間と組織づくりを行い、輝く未来の奈良を創造してまいります。それが、私の考える「CHANGE NOW」です。

Angle 視点を变える

「転石苔を生ぜず(A rolling stone gathers no moss)」この言葉は「同じ場所にとどまらない石には、苔も生えない」という例えから「職業を転々とする人は成功できない」警句の意味として日本では使われてきました。しかし、アメリカでは「活動的な人は能力を錆びつかせない」という全く反対の意味で用いられていることをご存じでしょうか。これは、アメリカ人が「こけ」を綺麗なものとして認識していないこと由来します。一方、日本人にとって「こけ」は鑑賞の対象であり、命の象徴でありました。日本の国歌である君が代の歌詞の最後に「苔の生すまで」とあるのは、その心情を象徴する言葉でもあります。この様に、同じ諺が国民性や視点のとらえ方でまったく逆の意味で使われる事実は特に注目すべき点でもあります。またこの諺は近年の日本でも「活発に活動し続けている者は、いつまでも古くならない」というアメリカ的視点の意味で多く使われるようになり、辞書にも明示されるようになりました。これは、時代とともに社会背景や言葉のとらえ方が根底から変化し始めていることを暗示しています。

今こそ、我われ若いリーダーは、急激に変わりつつある

社会情勢の中で、既成概念を根底から見直すとともに、狭い視野に囚われることなく、柔軟な視点と発想を養い、大胆な角度から“今”を考察することが必要なのです。時と場合によってはじっくり腰を据える日本の発想がいい時もあるでしょうし、大胆に切り替えるアメリカ的発想が必要なものもあるでしょう。多様な視点で物事を考え尽くすとともに、そこに新たな発想を付け加えることで、時代の変化を的確にとらえ、“今”という瞬間が最高の時間に変化します。

Time 時を意識する

時間とは「神様が我われに与えてくださった限りある大切な財産」です。我われには、この財産を1分1秒も無駄にすることなく有効的に活用して、自らや周りの人、そして住んでいる地域や国をより豊かにする責任と信念が必要なのです。

この様に大きな可能性を秘めた財産を、最大限に引き出すために、我われは“今”という瞬間、瞬間、を地域で輝き続け、そして多くの皆さんにその志を発信し、伝えていかなければなりません。そこには、自らの時間のつかい方への自戒も含まれています。時を意識することで、同じ質と量の発信や議論が短時間で行うことが可能になり、より多くの運動を地域にも伝えることができます。人は歩くなど日々の生活の大半を意識せずに行動しているといわれています。この無意識の行動をできる限り意識的な行動に変換することで“今”を“深く洞察”する能力が向上します。つまり、瞬間である“今”という時の価値観を意識することで、考える力が増し、時間という財産さえ増やすことが可能なのです。

Public Relations 想いを伝える

Public Relations (PR)とは「ファンを集めるためのコミュニケーション活動」である。と、書かれた本を読んだことがあります。

いくらよい事業をしても人が集まらなければ、多くの人に想いを伝えることはできません。いくら崇高な理念を掲げていても、それが地域に根ざしていなければ大胆な変革をもたらす大きな原動力にはなりません。新たな視点と論点から考察することで青年会議所自体や運動や開催事業を多くの方々に伝えられる様な積極的なPRを行う必要があります。まずは、PRを戦略に行うためには、自らのことを知る必要があります。それは奈良青年会議所の現在の立ち位置を知ることです。“今”の奈良のまちは、どの様な地域で、奈良青年会議所はどの様な歴史を歩んできたのかなど、自らの組織のことを熟知するとともに、我われの活動基盤である地域が何を求めているのかについても知ることが大切です。

また、多種多様な価値観を持ったメンバー同士、その手法を共有するためには、お互いの価値観の違いを認め、知

識を共有しようとする意識と機会が必要となります。そのため、例会や事業の様におもてなしをすることで生まれる新たな価値基準の共有とともに、気楽に話し合えるサロンなどの時を共有することでできる揺るぎない信頼関係の創造なども重要となります。こうした「目的に向かう強い信念と共通点」を探るためのコミュニケーションの機会も多く作ることに、さらに強固な組織へと変化します。

CHANGE NOW 改革の時

青年会議所の目的は、明るい豊かな社会の実現です。まずは、先輩諸兄が築き上げてくださった伝統や、事業を組み立てるプロセス等を再度学び直し、それをメンバーで共有する必要があります。そこで、新たに我われのメンバーとなる新入会員には、自らが入会したJCという組織がどの様な団体なのかという正しい認識と知識をさらに深めるための基本的な土台や、奈良の歴史や文化、風習を知ること、現在の自分の立ち位置をきちんと理解してもらいます。そして、既存のメンバーも新入会員の時のような初心にかえり、さらなる意識統一を図ります。

また、一人ひとりの会員の資質を上げることで、奈良青年会議所の価値を高め、明るい豊かなまちの創造につながります。しかし、資質向上といっても色々あります。周囲からの見え方や見せ方などの立ち振る舞いから、素早い判断をする訓練や考えを的確で効率的にまとめる論理的な思考を養うものまで様々な資質が求められます。この様な多面的な意味での資質の向上を目標に、魅力ある青年になるためのプログラムを年間通じてメンバー全体で共有し学び育みます。また、その魅力あるプログラムをメンバーの身近なビジネスパーソンに発信、または共有することで、奈良青年会議所との双方向の交流と受発信にもつなげていきます。これにより、メンバーだけではなく奈良の地域の産業を担っている方々の資質の向上にも寄与し、地域全体の活性化と発展を促進させます。

さらに、地域の方々や協働する事業を活性化につなげるためには、意識や目的の統一も大切です。そのため、より多くの地域の人々に参加してもらう必要があります。新たな手段や魅力あるプレゼンテーションや広報戦略の手法を学び、年間通じて有効かつ効率的に想いを伝える具体的に実践的な運動を行います。

そして、運動をともにに行いたいと思う同志が募る方法についても柔軟に考慮し、それを実行します。魅力あるところには、人が集まります。人が集まるところにはさらに人が集まり、さらに魅力的な組織に変化します。

また、今年は、日本の未来にとって、最大の変革の“とき”です。昨年には70年ぶりに公職選挙法が改正され18歳から選挙権を与えられました。このことにより全国で約240万人の若い有権者が増えます。つまり、18歳と19歳の若者が投票を行うことで、一定の主張を国家にすることが

できるようになります。また、昭和22年5月3日に施行され現在まで一度も改正をされていない日本国憲法の改憲議論も活発にはじまっています。これは、大きく国の形が変わることを意味しています。

この様な国家にとって大きな変革が起きている“今”という時を意識して「運動を進めなければなりません。ですが、情報は溢れかえり、何が正しくて何が間違っているのかさえ分からない時代になってきています。今、我われには、若い世代を取り巻く政治的、社会的影響の変化に敏感に対応し、青年世代を率先する者として若い世代を導く責任があります。そして、大量の情報を「色々な視点から熟慮を重ねて」「より多くの人々へ発信する」ことで、より若い世代にも目を向けた政治が行われることの礎となる運動を奈良の地より率先して行うことが求められています。もうすでに改革は始まっています。改革のイニシアチブを主導し未来を明るい豊かな社会へ導くのは我われ自身であるという新たな意識改革のムーブメントを湧き起こします。

さらに、このムーブメントを、奈良青年会議所の活動範囲全域に広げなければなりません。まずは、私自身が率先して、生まれ育った恩のある生駒市にて様々な行動を起こします。活動範囲の拡大や人脈を増やすとともに、それを未来にもつなげていける体制をつくり、奈良青年会議所における活動範囲全域での活性化へつなげる新たな元年とします。

Conclusion おわりに

人には過去と現在があり、そしてまだ見ぬ未来があります。

現在という瞬間の時を大切に生きてこそ輝く未来があると信じています。

私の好きな言葉に「過去も未来も存在せず、あるのは現在という瞬間だけだ」という名言があります。これは、戦争と平和という著書で知られるロシアの文豪トルストイの言葉です。これを私なりに解釈すれば、「過去も未来も、視点を変える発想だけでポジティブに変えることができる」となります。私たちの未来は、自分自身の柔軟な思考と揺るぎない志で必ず豊かなものになります。

「“今”この瞬間を輝け！そうすればおのずと理想の未来が創造される！」

この想いを胸に刻み、これからも謙虚な心と揺るぎのない信念を持って活動してゆくことを改めて心に誓います。

2016年度、先輩諸兄が積み重ねてこられた伝統と志をしっかりと受け継ぐとともに、新たな視点と柔軟かつ大胆な発想を養い新しい時代への価値観を共有させ“今”という最高の瞬間を全力で行動することで、輝く未来の奈良を創造いたします。